

事業の目的

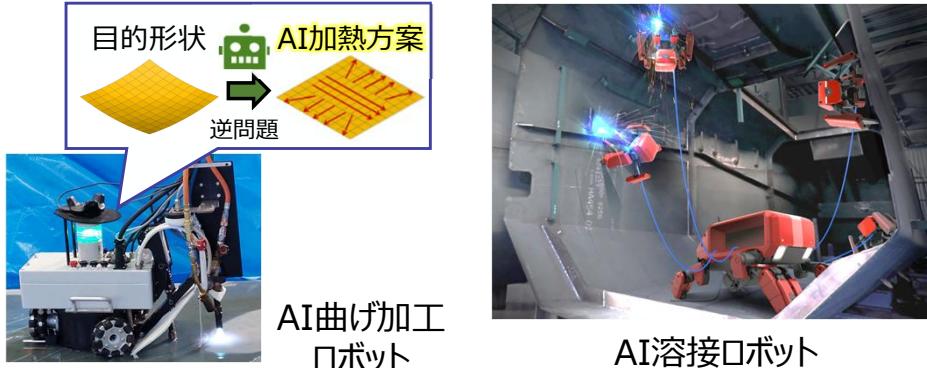
- 我が国の人手減少に伴い、造船業では若年層を中心とした人手不足や熟練技能者の高齢化が深刻化。また、船舶毎に設計仕様が異なるため、製造ラインによる大量生産ができず、技術・技能の継承が難しいという課題がある。
- このため、船舶建造の各工程において利用可能なAI造船ロボットや当該ロボットを最大限活用するために必要なAIシミュレーション基盤等を開発することにより、抜本的な生産性の向上や高度な技術力の継承を図り、少ない人手による船舶の安定的な供給体制を構築する。

事業内容

- 研究開発とSociety5.0との橋渡しプログラム（BRIDGE）の下で、以下の取組を実施する（委託）。
 - ✓ 船舶建造の各工程において利用可能なAI造船ロボットの開発
 - ✓ 当該ロボットを最大限活用するために必要なAIシミュレーション基盤等の開発

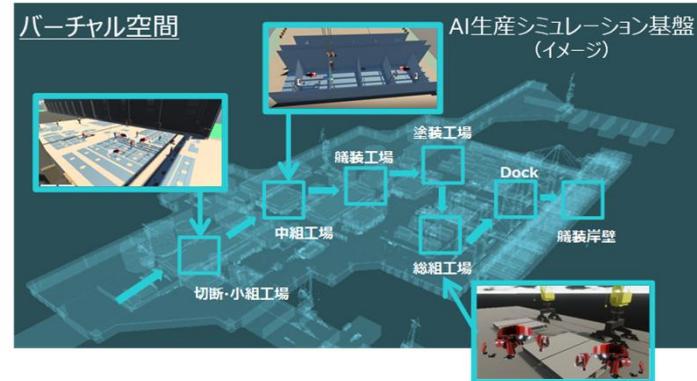
（例）

<AI造船ロボット>



曲げ加工・溶接等の建造工程について、AIを活用した強化学習等を踏まえ、耐久性に優れたAI曲げ加工ロボットやAI溶接ロボットを開発

<AIシミュレーション基盤>



ロボットの作業経路、干渉、センサー視界等を分析し、最適なロボットの行動計画を立案可能なAIシミュレーション基盤を開発

予算額

150億円（令和7年度補正予算）

実施期間

令和7年度～令和8年度（約1年間）

効果

・造船業の抜本的な生産性の向上
・船舶の安定的な供給体制の構築
・日米造船協力の推進